

# われもこつ 第37号

2016年4月20日 発行

庭先や道端で野の花を摘んできて花束を作ったり、ガラス瓶に活けたり。野の花を増やす会『われもこつの会』の名前にも使われているワレモコウも夏の花束に彩りを添えてくれました。漢字で「吾亦紅」と書くことも。私だって紅いよ…といたげな、小さな小さな花が集まって、草むらにまぎれ込むようにぼつぼつと地味な花を咲かせていました。



最近、自生のワレモコウをあまり見かけなくなりました。われもこつの会の原っぱでも育てていますが、栄養が良過ぎるのか大株になってただけしいくらいです。自生のわれもこつの可憐さが本来の姿なのだと思います。

~~~~~  
軽井沢の森から 大槻幸一郎・・・p.2


お砂場で火山学！～軽井沢自然クラブを振り返って～ 栗岩竜雄・・・p.4

会員の声・・・p.6

お待たせしました！山野草鉢苗プレゼントのおしらせ・・・p.8

# 軽井沢の森から


大槻 幸一郎



軽井沢に定住して十年が経ちました。それまで四十年近く林野庁の職員として、北海道から九州までの日本の森を見て来ましたが、一箇所でこれだけ永い期間住んだ事はなく、また森をジックリ見つめる機会もありませんでした。今回は、比較的最近の軽井沢の森の話題をいくつか紹介します。

## 矢ヶ崎山のヤマビル

群馬県境の矢ヶ崎山の森は、プリンススキ―場の上部に位置しており一般の人には余り関心のない地域にあります。漏れ聞いた話によると、この地に陛下が登山なさったらしいとの事。しかも登山前日に突然の御下命があり、警備担当は大慌てで急遽現地調査に走



ったところ、ヤマビルの生息地である事が判明。これに驚き、計画中止を進言したものの予定通り登山が実行され、如何ほどのヤマビルが付着したかは判然としないものの、無事の下山に警備担当はホッと胸をなでおろしたとの事。ヤマビルは鹿やイノシシの蹄に挟まる等して東は群馬県側から、南は山梨県の八ヶ岳山麓方向から迫っているが、背筋が寒くなる、あの異様な姿の小動物だけは、何としても軽井沢に入るのを避けたいものです。

## 湯川、浅間大橋下の河畔林伐採

散歩で時々通るルートでの出来事でした。「公益伐採事業の進入路作設中」という見慣れない看板を見つけ、河畔林が無造作に伐採されている事に複雑な思いでいましたが、新聞記事でその真相が判明したのです。浅間大橋から見た浅間山の眺望が、河川敷の中の樹

木が大きくなったために見えづらくなり、河川管理者の県事務所に町当局から伐採を依頼したとの事です。多分、誰一人として悪意でやったことではないものの、結果は「おそまつ」の一言です。一級河川・湯川の河畔地区整備計画を作り、その中で保全すべき地域として区分されているにも係わらず、見事な皆伐が目の前に広がったのです。担当者が変われば全て白紙との、行政の不連続性を象徴する様な事件とも言えますが、失われたハルニシ林等の復元へ期待は大きいと言えます。自然の復元には、復元したい樹木を植栽して将来のイメージする姿へ早期に誘導させる方法、人為を殆どかけずに自然力のなすがままに植生を回復させる方法等が考えられますが、いずれの方法でも長期的なモニタリングを実施して、自然がダイナミックに変化する様を記録しておく事が大切です。昨年の夏

には、以前は目に入らなかったシシウドやオウバユリが橋の上から沢山見られました。が、今後は湿地帯特有の山野草などが観察されるかも知れません。災い転じて福となし、「おそまつ失政」で失った貴重な自然と、行政府の信用を少しでも回復する場となることを期待しています。

### 八風山、妙義荒船スーパ―林道周辺の森

浅間山を北に、眼下には軽井沢、御代田町を見下ろすロケーションに、素晴らしい眺望の森があります。林道沿線の森は、ナラ類の茂る広葉樹の民有林と、軽井沢ではなかなか見られないヒノキ人工林の国有林があり、浅間山側の火山性の乾燥土壌とは明らかに違う環境にある事がわかります。

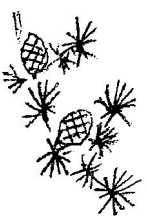
さてこの場所は、佐久市側にある観光牧場やロスモス畑に行くための隠れた観光スポットですが、我が家にとっては浅間山噴火時

の緊急避難地として決めている大切な場所なのです。噴火時の我が家からの避難経路は、群馬県側に下る方法と佐久市側に避難する二つの方法が考えられるのですが、いずれの方法でも交通は避難者で大渋滞を起こすであらうと考えられます。であるならば、無理して動かすに對岸に一気に駆け上がり下界の様子を観察しようとした避難場所です。身近に役場の指定した公式の避難場所があるはずですが、万が一の場合には皆さんも、参考にして下さい。

### 追分宿北方の浅間山国有林

練馬区立軽井沢少年自然の家がある周辺のアカマツ林に、不思議な現象が見られます。二本のアカマツが根元でくっついて一本の樹木のように育つ現象で、この樹木を合体木と言います。映画「釣りバカ日誌」に出てくる「合体！」と良く似ていますが、こちらは人

ではなく樹木の話です。子供たちにアカマツ林の間伐実習を指導している講師から、「何でこのアカマツ林には合体木が沢山見られるのか？」の問い合わせがありました。樹木を根元近くで伐った田盤には、二つの中心を持った年輪が見られ、一番外側では一つの年輪になっています。根は、二つの独立したものであり明らかに違った個体が一体化したもののようです。苗木を一本一本植えた森では、このような事は有り得ません。しかし沢山の種子を播いて出来た森では、種子が重なったり、隣り合わせで発芽したりして、その後の成長過程でお互いを抱え込んでしまうことがあるのです。石壁やフェンスを、樹木の幹がくわえ込む様をご覧になった事があるでしょうが、これを自然界の厳しい生存競争を見るとすべきか、それとも深い愛情の現われと見るかは読者の気持ち次第です。



さていよいよ1万年ほど前。のちに第二外輪山となる前掛山が成長してきました。砂場の中央に再び大きな山を作ることに。これがどんどん高くなり、先にあった仏岩の北半分を飲み込み、それまでの仏岩山頂をはるかに超えてつながり、一体化しました。現代の浅間山の前身として、だいぶ見覚えのある形になってきました。ここまで来ると完成まであとわずか。石尊山を付け足し、前掛北東には新たな火口を設置。文献によると何回かの軽石噴出が示されています。これが現役の浅間山の釜山の誕生でしょう。石尊山の形成と、前掛火山の終息、浅間の釜山誕生については具体的な年代が記されておらず、順番の説明だけになってしまいましたが、仕上げとして天明3年の噴火による鬼押し出しを作って終了。予

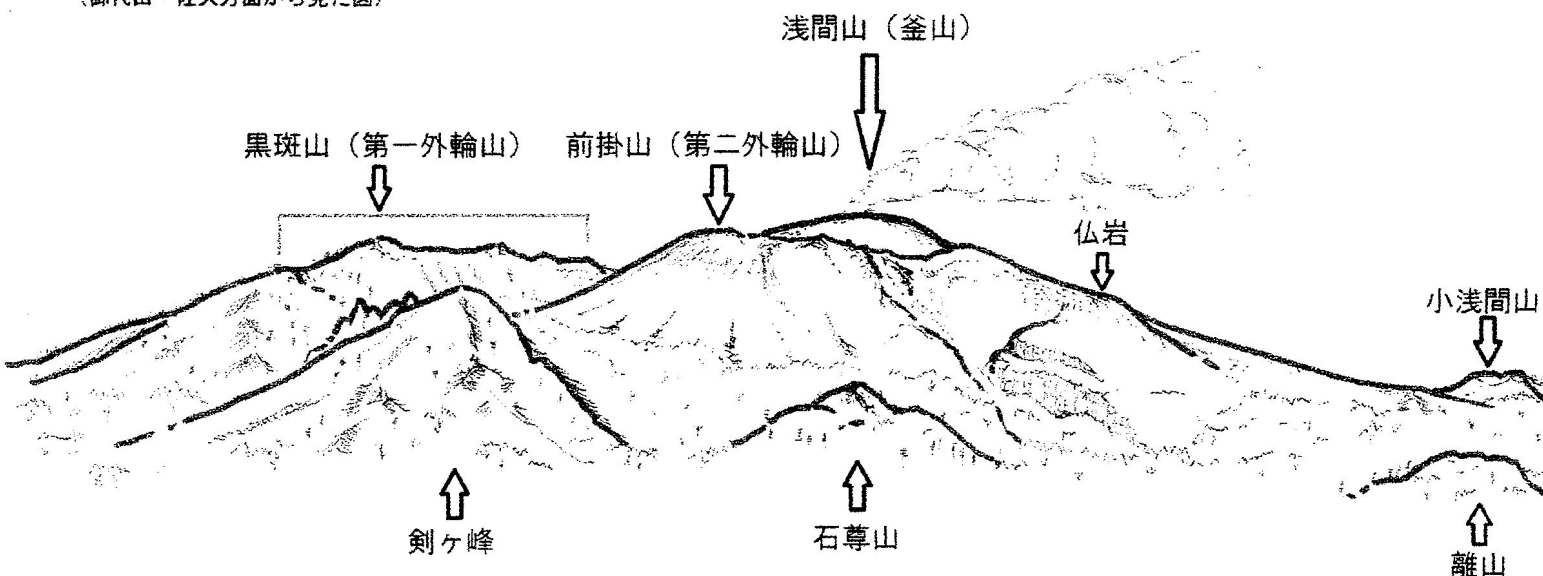
想以上にリアルなジオラマが完成しました。

中部小では遠足などの年中行事で、学年ごとに町内外の山に登ります。浅間や前掛、仏岩は無理としても、黒斑、石尊、小浅間、離山と、当地の風景ではおなじみの山々に、期せずして足を運んでいるのです。地学や火山学と言えは難しいのですが、浅間山は地域特有の教材として、価値ある存在だと言えそうです。約3万年前から現在までの出来事を、1時間ほどで早送りした感じですが、この経験によって知識だけでなく、多少なりとも郷土愛が深まってくれたら…と思っています。

さて当該のジオラマ、惜しまれながらその場で解体。元の更地に戻りました。

【くりわ・たつを 蝶の写真家 軽井沢在住】

現在の浅間山と周辺の山々  
(御代田・佐久方面から見た図)





# お砂場で火山学！

～軽井沢自然クラブを振り返って～

栗岩 竜雄

中部小学校の『軽井沢自然クラブ』は、バスハイクを中心に校外を探索する体験型学習をしていますが、かつて春～秋がメインだった実施日が2年程前から秋～冬へ後退したため相應の対応が迫られるようになりました。そんな中、一昨年あたりから浅間山の生い立ちにも触れることに…。写真や口頭で過去3万年ぐらい前から現在に至る造山活動を説明。何気なく眺めている浅間山も、ある意味生き物であると捉え、子供たちへの理解を促しました。

去年は更にわかりやすくするため、ジオラマ作りに挑戦！校庭の片隅にある、本来なら走り幅跳び用の砂場をお借りして…。浅間山の実標高は 2,568m。軽井沢が標高 1,000m 前後に位置するので、そこからの差はおよそ 1,500m。この部分を 2000 分の 1 スケールで再現。まずは第一外輪山「黒斑山」の 3 万年ぐらい前の姿からスタート！浅間縄文ミュージアム発行の「浅間嶽大焼」や、類するパンフレットを参考に、子供たちとのお砂場遊び(?)が始まりました。クラブ員各自のスコップにより、通常のお砂場遊びでは絶対目にし

ないレベルの巨大な山が現れました。文献によって数字は異なりますが、およそ 2 万 8 千年前、現在の浅間山より高い 2,800m ぐらいの黒斑山が、水蒸気噴火を起こし、山体崩壊！これが目でわかるよう、実際に砂山を崩して見せました。せっかく作った山ですが、3 分の 1 ぐらい残してなだらかに。真上から眺めると三日月状に弧を描く外輪山になっています。頑張って積み上げた山を平らにするなんて、もったいないとの声が聞かれました。しかし授業はまだ入口。このあと 2 万年ぐらい前に現れた仏岩火山や、その少し後に出来た小浅間山も作るのです。仏岩は今見える浅間山（正確には前掛山）の南斜面中腹にそそり立つ、垂直の岩壁の箇所です。また離山も小浅間と同時期に出来たとされ、各々の標高に合わせて、若干の高低差を表わしました。このような説明を続けていると、事情を知らずに様子を見ていたクラブ外の児童からは、「遊んでいるのかと思ったら、勉強していたんだね…。」との声も。何をやっているのか不思議だったのでしょ。

# 会員の 声



## ◆ダーウィンに聞いてみたい

現役の時に、リタイアしたら田舎暮らしをしようと思い、いろいろ調べていました。その結果、本当の田舎暮らしはできそうにないことがわかり、ハードルを下げて田舎っぽい暮らしでよしとするとし、退職を機に神奈川県から軽井沢に移ってきました。

家の周辺を散歩していると、ハルジオン（もしかしてヒメジオンだったかも…）が一面に咲いている場所（二箇所）を見つけました。帰化植物でもそれだけが一面に咲いていると美しいものです。翌年、同じ場所に行ってみると、いろいろな雑草が生えている普通の空き地になっていました。それも二箇所ともです。（がっかり。）なぜこのようなことになったのでしょうか。（だれか知っている人がいたら教えてください。）また敷地内にはツリフネソウ・マムシグサ・野イバラ・野イチゴ・フシグロセンノウ・ノカンソウ・オカトラノオ、ムシトリナデシコ、サボンソウなどいままで見ることがない草花たちが生えていました。特にツリフネソウは私のお気に入りです、なんでこんな形の花になったのか、ダーウィンに

聞いてみたいです。しかし、翌年ツリフネソウを楽しみにしていると、敷地内では全く見ることができませんでした。（がっかり。）しかし、昨年になってツリフネソウが敷地のあちこちに咲いているのを見つけ、大喜びです。（今年はどうなるかな？）地元の人に聞くと、千ヶ滝西付近では、昔はサクラソウやオキナグサが沢山生えていた、とのこと。そこで、環境的に適していると考え、園芸店で購入したオキナグサの苗を植えました。しかし、植えた年は機嫌よく花を咲かせ、種もできるのですが、翌年になると消えてしまいます。ホタルブクロも好きで、一昨年、自然に生えてきて喜んだのですが、昨年には消えてしまいました。別荘地管理事務所の山野草コーナーを管理している人に聞いてみると、「移植しても三年くらい経つと七〇％位は消えていく。」とのことでした。微妙な環境の違いが影響しているのかもしれない。

昨年、われもここの会に入って会員の皆様からいろいろな野草の苗や種をいただき、庭に植えました。苗の方は秋までは順調に育っていました。今年も芽吹いてくれるのか心配です。丹精込めて育てられた苗をいただいたのですから、責任重大で、期待しながら（心配もしつつ）春を待っています。もし消えてしまっても、これに懲りずに苗や種をくださいな。

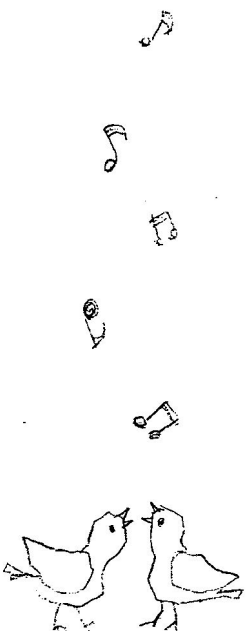
細川 照夫

## ◆「トロツコ」と「ワレモコウ」

軽井沢の一番浅間山に近いところ、これより上は誰も住んでいない山奥に軽井沢朗読館を建てて五度目の冬を過ごしている。冬の軽井沢は静寂そのもの。雪と氷相手は大変だけれどすっかり魅入られてしまった。

軽井沢暮らしスタートの年、真っ先に「われもここの会」に入った。NHKの現役アナウンサーだった一九八四年というずいぶん昔のこと。当時担当していた『関東甲信越小さな旅』の特集、一般の方からの手紙で構成する「忘れえぬ旅」で「トロツコが好きだった少年」と題して、日本中のトロツコを見て回る旅を続けていて列車から転落して亡くなった十七歳の少年の足跡を訪ねる親御さんの旅を放送した。ナレーション担当の私にとって生涯一番心に残った番組といえはこれだった。画面ずっと奥までひろがるワレモコウの群生。あまりの美しさと哀切に映像が心に焼きついてしまった。朗読館の回りにもワレモコウを見かける。それが嬉しい。ワレモコウは私にとって特別な伴走者になっている。

青木 裕子



◆軽井沢の良さ・らしさを後世へ

当地軽井沢は一三〇年前に異邦人宣教師に見いだされ、幾多の歴史ステージを経て近代的避暑地として今に至っています。白煙を吹く雄大な浅間山に抱かれ、山麓には落葉松林が広がり、湧水清く、空気澄み、小鳥や野生動物が生息し、かつては野草の広大なお花畑を擁する高原の別天地でした。大正から昭和にかけて外国人やサマーハウスを持てる富裕層が避暑客として街賑わいの中心となり、テニスコート、ホテル、教会に加え東京から一流の食料品店やカフェが進出、異国情緒溢れる雰囲気を持った街並を見せるようになります。俗化や拝金主義を嫌う進取の気性豊かな文学者や学者達は西域に集いコロニーを作りました。



当地の良さ、らしさとは江戸時代中山道の宿場風情をベースに、膨大な歴史、文化遺産と大自然が融合し、ピュールリズムの雰囲気を持った比類なき高原避暑地であると思います。しかし近年の変貌ぶりには驚くと共に残念に思います。町の顔となる駅舎や庁舎、街路の植栽や旧軽銀座の街並みは近代的な建物に替わり、歴史を物語る遺産群は今や風前の灯のようです。建物保存規制の抜け落ちか、規制を守らない非道徳的行為の仕業か、価値観の変化が招いた結果でしょうか。

多くの町村が人口を減らす中、世代交代や

ライフスタイルの変化からか、当地では都会からの移住者を中心に着実な世帯増加を見ています。この地の冬季自然条件は住み良いとは言えず、移住の地と決めた理由を聞いてみたい気がします。漠然としたイメージからこの地が持つスノッパな雰囲気をステータスとして選んだのかも知れません。無関心な人達に当地の良さ、らしさを知っていただく地道な活動が求められます。先ず移住者や地元民が足元の良さ、らしさを再発見、認識し、行動を起こすことが大事ではないでしょうか。

歴史文化遺産の維持管理や自然保護に関するボランティア活動の団体は何と一〇を超えます。一部歴史的建造物や自然環境に関わる維持保全は今からでも間に合うのですから。

羽鳥 義直

◆俳人つっちーのへ軽井沢再発見

軽井沢周辺に著名俳人の足跡及び謂われのある碑があることをご存知ですか？  
ここで幾つかご紹介しましょう。

先づ碓氷峠で詠んだ句

\* 坂本や袂の下は夕ひばり

小林一茶

\* 剛直の冬の妙義を引き寄せ

山口誓子

熊野皇太神社に句碑あり

\* 夏木立花は碓氷の峠かな

伊達政宗

軽井沢宿 旧軽つるや旅館近くの句碑

\* 馬をさえながむる雪のあした哉 松尾芭蕉  
天保十四年建立 「野ざらし紀行」の一句

次は、追分宿辺りで浅間神社の句碑

\* 吹きとばす石は浅間の野分かな 松尾芭蕉  
芭蕉四十五歳「更科紀行」の一句

諏訪神社の句碑

\* 有明や浅間の霧が膳をはふ 小林一茶

謂われのある碑として浅間神社に

「追分節発祥の地」碑があります

「碓氷峠の権現様は わしが為には守り神  
浅間山さん なぜ焼けしゃんす 裾に三宿を  
持ちながら」とあります。「追分節」は諸国に  
ある追分節の源泉といわれ、それが今日の定  
説となっております。

追分宿を過ぎると分去れの碑があります。

「右、従是北国街道 左、従是中山道」と  
刻まれています。つまり右へ行くと更科へ、  
左へ行くと京都へ、と言っていることです。

最後に塩沢辺りにて(詠み人・つっちー)

\* 軽井沢高原文庫霧深し

\* 秋澄めるなり鳥の声山の声





# 山野草の鉢苗プレゼントのおしらせ



# 2016

## 年の作業予定日

都合により変更することもあります

5月15日(日)

25日(水)

6月5日(日)

15日(水)

26日(日)

7月6日(水)

10日(日)

20日(水)

8月7日(日)

24日(水)

9月4日(日)

14日(水)

10月2日(日)

19日(水)

11月6日(日)

▶日曜日は  
**発地の原っぱ**

▶水曜日は  
**前沢の原っぱ**

午後1時30分

集合

作業の進行状況等により移動することもあります。

▶雨天中止

▶持ち物:園芸用手袋  
スコップや草刈り鎌  
日除けの帽子、長靴  
水筒(熱中症予防に)

第5回ちいき活動みほん市(2016年1月31日、軽井沢町中央公民館にて)に、われもこの会も5回めの参加! たくさんの方にご来店いただきました。

われもこの会の出店コーナーでお配りした山野草の鉢苗引換券をお持ちの方、  
お待たせしました!

6月の作業日に野の花の苗をご用意してお待ちしております。午後1時半~2時半頃、発地の原っぱ(6/5、26)、または前沢の原っぱ(6/15)にお立ち寄り下さい。

ワレモコウ、オミナエシ、サクラソウ、ヤマホタルブクロ、アケボノソウ、カワラナデシコ、クリンソウなどの苗が揃う予定です。植える場所や育て方のアドバイス付きでお渡しします

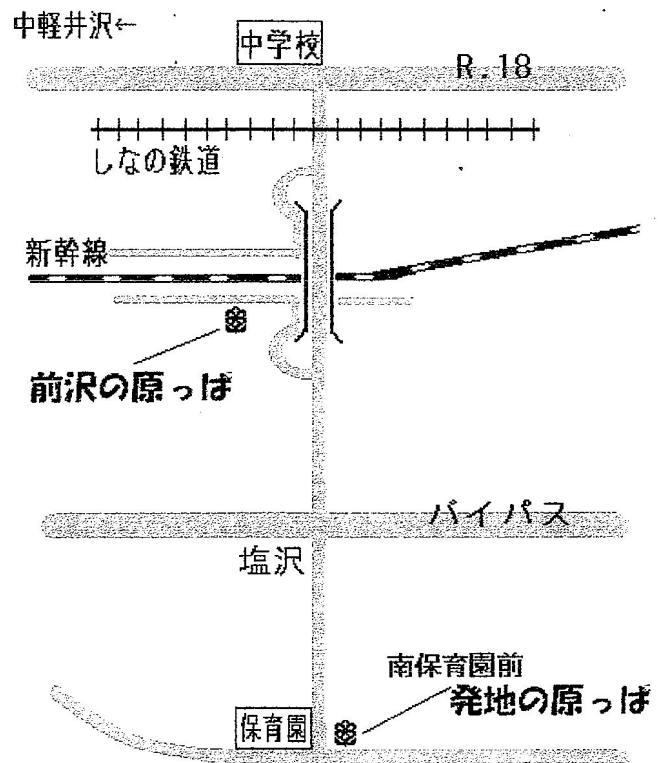


土いじりが好き、外で体を動かすのが好き、  
野の花が好き、という方はもちろん、  
時間はあまりないけど応援したいという方も。

## 会員募集中!

◆年会費 1,000円  
(65歳以上の方、18歳未満の方は500円)。

作業日に原っぱでお待ちしております。



発行/野の花を増やす会 われもこの会 Tel/090-4442-4387 Fax/46-3064